

クラス：D

グループ：2

選んだケース：ケース5

1. レディネスとニーズ分析

1)

在留資格	特定技能1号（2年目）
在留資格移行見通し	特定技能1号（現在） ⇒ 在留資格「介護」（ソー、リン）
日本滞在歴	来日2年目。 但しライさんは技能実習生（繊維・衣服関係）と3年実習
職種	介護
国籍、人数内訳、学歴等	ミャンマー：ソー（25歳 大卒） リン（26歳 大卒） ベトナム：ライ（22歳 高卒） *全員女性
日本語学習歴	ミャンマー2名は国で自学。ベトナムのライさんは技能実習生の時に入国前講習160時間および入国後講習160時間を受講。
日本語能力等	利用者との短いやり取りや、仕事上のルーティン化された業務についての日本人介護スタッフとのやり取りはできるが、利用者家族など、外部の人と話すことには慣れていない。ある程度パターン化された申し送りなどはできるが、発音や文法的な間違いのため時々聞き取りにくいことがある。ライさんは日本での実習経験があるが、初来日のミャンマー人と話す力に大きく差があるとは感じられない。ライさんは来日前にN3受験したが、不合格。
就労状況	まだ夜勤はしていない。
学習期間 学習時間数	6か月 週2回： 平日夜1時間半 土曜午後2時間
ニーズ・所属機関の要望等	<p>【外国人介護スタッフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語をきちんと勉強してN3に合格したい。 ・介護の専門用語や仕事に必要な会話を勉強したい。 ・ソーさん、リンさんは母国の病院で看護助手の経験があり、介護福祉士国家試験に合格して、将来は日本で介護福祉士として働きたいと思っている。 <p>【施設側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や謝る、ほめる、お願いするなど、同僚や利用者との円滑な人間関係を築くのに必要な日本語の言い方を学んでもらいたい。 ・利用者家族など外部の人と話すときの丁寧な言い方、敬語が使えるように。 ・日本語だけでなく、日本の生活習慣や季節の話題など利用者とのやりとりが深まるような日本についての知識もあればよい。
その他	特別養護老人ホームで就労中。施設が借り上げたマンションで3人でルームシェア

2) 学習者のニーズ・研修依頼者のニーズ

<学習者>

- ・ JLPT や国家試験に向けた学習
- ・ 仕事で使う専門用語、仕事に必要な言葉 ⇒日本語でうまく仕事ができるようになりたい

<研修依頼者>

- ・コミュニケーション能力の向上
- ・日本語での人間関係の構築

2. シラバスデザイン

1) 授業時間数	1 週時間：1.5H+2.0=3.5H、1 か月：3.5H×4w =14H、6 か月：14H×6M=84H 24 回コース
2) コースの方針	業務場面に応じたコミュニケーション能力の向上
3)到達目標 ・どのように日本語力を養成するのか？ ・どのような日本語力を養成するのか？	1) 場面や人に応じて言葉や表現を使い分けて、話すことができる。 2) 専門用語を交えた会話を、同僚とすることができる。 3) N3 相当の文法を理解し、使用することができる。 ※就労場面における日本語能力:参照表の B1-1 レベルを目指す。
4) 学習内容	<p>1. 利用者に対する声掛け表現</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自己紹介の仕方 - 患者への声掛けで使う表現 ※場面の手順に応じた声掛け - 利用者と人間関係を築く表現 ※ほめる・やわらかい断り表現 - 各場面での練習（ロールプレイ） - 季節のレクリエーションに応じた会話 - お年寄りに伝わる発音とは - あなたはどうしてる？ ※普段の業務でのやりとりを共有 & 修正 <p>2. 来客者に対する会話表現（利用者家族、業者等）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 外部の方へのさまざまなあいさつ - 用件を聞く、待ってもらう、用件を伝える - 質問への対応（伝え方、答えられない時の言い方） - 雑談をする <p>3. 業務のための日本語</p> <ul style="list-style-type: none"> - 報告する (専門用語、テンス、程度表現、話し言葉と書き言葉) - 連絡する (電話対応、遅刻欠席連絡) - 相談する (自分の気持ちを伝える、依頼する) - 報告書作成 <p>4. N3 対策</p> <ul style="list-style-type: none"> - WEB サイト「にほんごをまなぼう」を利用 - 基本的には自学で、授業内で質問を受け付ける

	<p>- 適宜、教師から声掛けする</p> <p>5. 各回の授業に入る前に前回の振り返りをしていく</p> <p>6. 中間発表（クラス内）では前半の理解度と上達度を評価し、後半の授業の内容を検討していく機会を教師側も持つ。最終発表では施設の人に対しても日本語教育や多文化共生への興味を持ってもらう意図も含んでいる</p>
5) 教材	<p>1. 介護の N3</p> <p>2. 「会話で学ぼう！介護の日本語」（中央法規）</p> <p>3. 「にほんごをまなぼう」（web サイト）</p>

3. カリキュラムデザイン（学習計画および学習目標）

回	授業の内容	学習目標	教材
1	挨拶・自己紹介 N3 対策	自分を表現できる／相手により表現を使い分ける	
2-3	場面①：食事・移乗（利用者向け） N3 対策	利用者の安全に配慮した表現ができる／食介でのコミュニケーション表現ができる。	
4-5	場面②：排泄・着がえ（利用者向け） N3 対策	プライバシーに配慮した言葉遣いができる。	
6-7	場面③：入浴・清潔（利用者向け） N3 対策	安全でプライバシーに配慮した表現ができる。	
8-9	場面④：季節のレクリエーション（利用者向け） N3 対策	季節に応じた会話表現ができる／利用者に質問ができる。	
10	中間発表（クラス内）	Can-do に沿った表現ができる	
11-12	場面⑤：食事・移乗（スタッフ間） N3 対策	食事介助時や移乗時の状態を報告できる。	
13-14	場面⑥：排泄・着がえ（スタッフ間） N3 対策	排泄に関する報告表現ができる。	
15-16	場面⑦：入浴・清潔（スタッフ間） N3 対策	入浴・清潔に関する報告表現ができる。	
17-18	場面⑧：緊急時の対応（スタッフ間） N3 対策	緊急時に安全に配慮したやりとりができる。	
19-20	場面⑨：緊急時の対応（利用者向け） N3 対策	緊急時に利用者に適切な表現を使って声かけ・誘導ができる。	
21-22	場面⑩：面会（対利用者家族） N3 対策	家族へのお願いや断り方の表現ができる。	
23	最終発表の練習+N3 模擬テスト	N3 レベルの知識の習得が得られる。	
24	最終発表（対施設向け）	報告内容を学習成果として施設側に向けて発表する。	

4. 評価

1) 評価項目

(1) 会話力

- 場面や相手に応じた適切な表現で話すことができる
- 相手に伝わる発音で話すことができる

(2) 専門用語の利用

- 場面に適した専門用語の使用ができる

(3) N3 レベルの知識の習得

2) 評価方法

(1) 場面や人に応じて言葉や表現を使い分けて、話すことができる。

- 評価：ロールプレイ&グループディスカッション（業務のカンファレンスを想定とした場面）
→場面や人によって語彙・文法・語用ができてきているか

(2) 専門用語を交えた会話を、同僚とすることができる。

- 評価：中間発表→場面を選択して報告までの流れができてきているか
修了時 →報告として書いた文章を提出してもらう（施設の人に見て頂く）

(3) N3 相当の文法を理解し、使用することができる。

- 評価：N3 対応の評価としては、「介護のほんご」アプリを利用し、管理者アプリでチェックとテスト結果

以上